

## 8月のハイライト

欧州委員会は、Syngenta 社の AgrisureDuracade® 形質 (5307 品種); 根切り虫 (corn rootworm, CRW) 制御のための新しい耐性形質を持つトウモロコシの輸入を承認した。これで EU 加盟国での食品および飼料用のすべてのトウモロコシ粒およびトウモロコシ由来製品を対象としている。これにより、ヨーロッパのトウモロコシ農業者はこの形質をよりよく利用できるようになり、年間収穫量を増大することができる。また更に 10 の遺伝子組換え生物 (GMO) を承認した。7 つは食物用と飼料用 (cotton GHB614 x LLCotton25 x MON1598、トウモロコシ 5307、トウモロコシ MON 87403、トウモロコシ 4114、トウモロコシ MON87411、トウモロコシ Bt11 x MIR162 x 1507 x GA21、ダイズ MON87751)、食品用と飼料用 (アブラナ Ms8xRf3 とトウモロコシ 1507 x NK603) の 2 つの更新承認、および装飾用切り花としての 1 つのカーネーションである。また、7 月 25 日に欧州高等裁判所はゲノム編集による作物も遺伝子組換え生物 (GMO) であり、GMO の法規制を免れないとした。EU の持続可能な農業と食糧生産のためのゲノム編集の使用に関する 7 月 25 日に公開された欧州声明によると、2001 年に発行された EU GMO 法は、科学研究と知識の現状をほぼ正確に反映していないとして、欧州の 127 の研究機関の科学者が、欧州評議会、新しい欧州議会、今後の欧州委員会などの欧州各機関に、欧州の科学者と育種家が持続可能な農業と食糧安全保障のためにゲノム編集を適用できるようにするための適切な法的措置を取ることを緊急に求めている。更にニュージーランドでも遺伝子組換え規制の緩和を求める動きが出ている。即ち、遺伝子工学 (GE) および遺伝子組換え生物 (GMO) は、2003 年の有害物質および新生物法によりニュージーランドで規制されている。上記の報告により、パネルは今が変更の時期であり、旧法案を見直す必要があると認めた。ニュージーランドには GE と GMO に対する開発と機会を評価する独自の手段があることが重要であり、パネルからの各勧告を慎重に検討し、現在の規制を更新することでこれらを達成すべきであるとしている。

わが国の国立農業食品研究機関 (NARO) のイネの専門家とその共同研究者は、 $\beta$ -トリケトン除草剤、ベンゾビサイクロン (BBC) に対する広域スペクトル抵抗性を付与するイネ遺伝子を発見した。 $\beta$ -トリケトン除草剤であるベンゾビサイクロン (BBC) は多くの水田で有用であるが、一部のイネ品種は BBC の影響を受けやすくなっている。この感受性の遺伝的原因の発見は、育種家が BBC 耐性作物を開発するのに役立つ。